

次月活動予定

6月

- 1日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導 JCCA 役員会
4日 アディクションフォーラム実行委員会
6日 再乱用防止教育事業県北
7日 榛名女子学園薬物依存離脱指導
8日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
9日 家族教室 再乱用防止教育事業県央 八重洲出版セミナー
11日 東京保護観察所プログラム
12日 宇都宮保護観察所プログラム アルコール関連問題研究会運営委員会
13日 黒羽刑務所薬物依存離脱指導
14日 榛名女子学園薬物依存離脱指導 再乱用防止教育事業栃木県精神保健福祉センター
15日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
16日 グレイスロードフォーラム
17日 第17回チャリティーコンサート
19日 再乱用防止教育事業県南
20日 栃木 DARC・岡本台病院連絡会
21日 JRCNAin 名古屋
22日 JRCNAin 名古屋 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
23日 JRCNAin 名古屋
24日 JRCNAin 名古屋
28日 宇都宮保護観察所プログラム 榛名女子学園薬物依存離脱指導
再乱用防止教育事業栃木県精神保健福祉センター
29日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導

7月

- 2日 アディクションフォーラム実行委員会
3日 栃木県立宇都宮高等学校講演
4日 再乱用防止教育事業県北
5日 榛名女子学園薬物依存離脱指導
6日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
9日 東京保護観察所プログラム

発行所

郵便番号一五七〇〇七二 東京都世田谷区祖師谷三―一七―一〇二号
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価100円

編集 特定非営利活動法人栃木DARC

〒320-0014

栃木県宇都宮市大曾 2-2-14 形松ビル 3F

TEL 028-650-5582 FAX 650-5597

URL <http://www.t-darc.com> Eメール:nesm@t-darc.com

SSKO

栃木 DARC

ニューズレター 第182号(2018, 6, 10)

Grow up!!
Drug Addiction Rehabilitation Center
DARC

2018年5月5日（土）下野新聞掲載



今までとこれから

大吉　努

寒暖差の激しさから体調管理の難しさを感じているこの時期ですが皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。早速、私事ではありますが、4 月を持ちまして栃木ダルクのプログラムと研修を修了し、修了証を頂きました。それに当たり今までのこととこれからのことについて、書いていこうと思います。

かしこまった挨拶も回復プログラムの中で学びました。「自分らしくない」とか「格好わるい」などと立ち回っていた時期もありましたが、今ではその頃の自分も、現在の自分も肯定できるようになりました。照れや恥ずかしさは今でもつきものです。使っていた頃の話をする、僕は自分を苦しめている「依存症」がどういう病気なのか分からずに薬を使い続けていました。使い続けるためにつき続けた嘘は、僕の物事の捉え方を大きく変えていき、使えば使うほどに自分に降り掛かる問題は大きくなっていきました。使っていた頃の僕は「あの時こうしておけば」とか、「言わなければ良かった」と自分の選択を後悔して、それを理由にまた薬を使い自分の作り上げた悲劇の主人公になる、そんな「依存症者」でした。そして、回復支援に繋がり、初めて自分の病気と問題に気付きました。それから現在に至るまで回復に沢山の時間を費やしてきました。たくさんの人にも出会いました。その時間を振り返ってみると僕には必要な時間であったと思います。振り返って「必要」と思える生き方をしてきた事に非常に大きな意味を感じています。20 代で回復支援に繋がり、時間をかけて少しずつ仲間の中で居心地を感じられるようになりました。安心した居場所の中で、単純に使う事だけが問題なのではなく、使う選択に向かってしまう自分の物事の捉え方、選択を含めた生き方が問題だと気付きました。そこから自分と向き合うことが始まり、プログラムに取り組み、少しずつ回復を続けてきました。回復の恩恵なのか今は嘘をつくと、心が囚われます。繰り返し使う中で失っていった自信や信頼は、回復を続ける中で新しい形で少しずつですが戻ってきていると実感しています。

今後については自分の回復を続けつつ回復を支援していく援助者としての生き方を選択しました。先のことよりも、目の前のことをまずは一生懸命やっていきたいと思っています。僕は人気者になるためや一番になるためにこの選択をしたわけではありません。僕の生きづらさ、やりたい事、回復支援の魅力と可能性、自分自身が今後、社会の中でどのような役割を果たして行きたいのかを考えて選択しました。これからも壁にぶつかることが多いとは思いますが、これまで通り素直に自分と仲間と向き合っていきたいと思っています。改めて今後ともよろしく願います。



Endless Addiction Recovery

依存症のヒコ

今回のニュースレターは2回目となります。栃木ダルクでの生活もリラプス（再飲酒）することなく2018年5月12日をもってクリーン1年を迎える事が出来ました。これも那須1SCと那珂川CFの仲間のお陰だと思って感謝しております。自分は那須1SCで足掛け9か月、那珂川CFで3ヵ月生活してまいりました。施設生活に於いては欲求もなくリラプスしませんでした、卒業後の事を危惧しております。なぜなら、自分一人の生活をきちんと出来るかどうか不安があるからです。やはり一人になると短気な性格の為、過去の自分の生き方に戻ってしまい、リラプスをしてしまうことを恐れています。施設のプログラムでDARC MT、NA、3ステージ、サルベージン etc を勉強して思考停止法、対処法等を教わりましたので、これからも自分に負けずに欲求を乗り越えていきたいと思います。

簡単に自分の説明をいたします。アルコールアディクション及びコントロール障害と診断されたのは、今から約八年前の事です。最初の頃は、それをなかなか認める事が出来ずに悩みました。そして栃木DARCに繋がりアルコールアディクションは、完治することの無い病だということを知り、それを理解した自分は奈落の底から這い上がりたいと決意してプログラムを受けています。飲酒、喫煙を始めたのが中学二年生の頃でした。二十一歳で結婚し二人の女の子を授かり、元売の直系のガソリンスタンドで働いていましてチーフマネージャーまで経験しましたが、育児や家庭の事は顧みず、パートナーに任せっぱなしで自分は好き勝手な事をしていました。毎日飲酒して豪遊して家族に沢山の迷惑をかけておりました。結局、最終的にパートナーから協議離婚して欲しいと持ちかけられて離婚に至りました。両親からも自分の飲酒について注意されていましたが、忠告を無視して飲酒していた結果が、アルコールアディクションになってしまい、後悔してもしきれない気持ちになり、自分に嫌気がさしました。完治しない病と知ったけど、回復はできると信じて栃木DARCへ入寮して10ヵ月目の今年3月5日より那珂川CFへ移動して、リーダーとしてスタッフ業務に従事しております。ステージも1から2に上がりました。でも那須1SCの頃はミーティングなどの座学がメインでしたが、那珂川CFのプログラムは農業、土木等の作業がメインで、初めての事で試行錯誤しながらも施設長、チーフの指導に従い仲間と共に切磋琢磨しております。仲間と協力しあって作業を進め、それを成し遂げた時は、以前に働いていた頃の自分を思い出させることができます。最近サルベージン、棚卸しなどをスタッフ業務の合間に励み、いずれは卒業を目指しております。施設のイベント等も結構有りまして、愉快的仲間達に振り回されながらも、施設生活をエンジョイしております。自分はまだ、家族再構築は行っていないんですが、今のうちから色々と思う事が有り、自分の過ちを認め、迷惑を掛けた家族に謝罪をしたいと反省しております。

那須1SCに居た頃に、仲間と一緒に日曜日の教会礼拝に行かせて頂ける様になり、洗礼は勉強不足の為まだですが、6ヶ月位でクリスチャンになることができました。礼拝後は心穏やかに成れまして、卒業後の事を考えると迷惑を掛けた人々に謝罪し、一日も早く社会復帰し貢献したい気持ちになります。以前の自分の過ちを認め、しっかり回復の道を歩む覚悟のうえ一生懸命自立に向け少しずつ邁進して参りたいと思います。それでは、この辺で失礼致します。最後迄拝読して頂き誠にありがとうございます。仲間の皆様、お身体を大事にしてクリーンを伸ばしましょう。

「与えられた道」

依存症のクニ

依存症のクニです。よろしくお願いします。この 5 月 16 日でクリーンが 3 カ月になりました。私は、栃木 **DARC** に入寮させてもらうまで、他の **DARC** でお世話になっていました。しかし、だだスベリを繰り返す有様でありました。今、思えば相当にその施設に迷惑をかけ、お世話になっていたにもかかわらず……。プログラムをののしり、「貧困ビジネスだ！」とか口にして批判をして……。恥ずかしい限りです。同時に、自分がかかっていた病院にも同じく相当お世話になっていたのです。スベるたびに、入院治療でした。毎回、死んでしまう位に薬を使ってしまうていたのです。ときには脱水、ときには腎臓の数値が悪くなり、もう少しで透析が必要な位だったり。それだけでなく、そんなにお世話になっている病院なのに閉鎖病棟の中にまで薬の売人を呼ぶ始末。24 時間、心拍数を計る機械が 180～190 を指しているので、「病室で運動をしているのか？」と言われたこともありました。主治医には、あの手この手で薬を使って、タクシーや救急車で病院に来ては迷惑をかける私に「薬物依存外来をつぶす気か！」と何度か叱られました。笑えません……。出入り禁止になるところを助けていただき、病棟にまで売人を呼んだときの件は強制退院でよしなにしていただけました。普通なら通報ものです。そして、当たり前ですがその病院には入院させてもらえなくなりました。外来では診てくれています。感謝の言葉以外ありません。栃木に来る前もすぐに紹介状を書いてくれました。「薬が手に入りにくい環境でクリーンタイムを伸ばすこと」とのことでした。頭が上がりません。お世話になっていた別の **DARC** にもとても迷惑をかけ続けていました。「自分は大丈夫なのだから。」と、仕事を勝手に探して自主退寮する身勝手さ……。しかし私が大ゴケ、だだスベリをして自分ではどうにもならなくなり、もう死ぬしかないのかと思ったとき、何度も何度も迷惑と自分勝手な振る舞いをしてきた私を受け入れてくれたのです。さらに、栃木 **DARC** へ行けるように、私が借りていた住居の処分など、入寮に向けた順序を付けてくれました。まさしく「ハイヤーパワー」です。以前、お世話になっていた **DARC** では「クニがハイヤーパワーとか言っていると心配、脱走する。」と笑われていました。そんな風に言われる位、プログラムから遠い所にいた自分でした。

自分でも何度目かわからないスリップの後に、その以前お世話していただいた **DARC** の施設長さんから「どこか、違う **DARC** に行ってみないか？」と言われたことがありました。そのときに、私は「栃木に行ってみたい」と答えたのを覚えています。理由は以前、仮釈放プログラムの会場で、那須 **1st Stage Center** の施設長さんにお会いしたことがありました。そのときの会場の役人に対しての、齒に衣着せぬ物言いと「回復」を背中で見せているような姿勢に「栃木には何かある。」そう、思ったからだとはっきり記憶しています。まあ、その時点では、自分が **DARC**=依存症からの回復施設に入ることになるなんて、夢にも思いませんでしたが。栃木に行けば、何かが変わるかもと、思ったのは事実です。

最後になりますが、私は今、薬のとらわれから解放され、とても楽になりました。何度もらったのか分からない『今日だけ』のキータッグ。もしかしたら、もう自分は「白」のキータッグはもらわないで済むのかもと、希望が持てるようになりました。とにかく謙虚に、今日だけを続けてクリーンタイムを伸ばしていきたいと思っています。**DARC** と **NA** では様々な仲間が様々な背中を見せてくれます。自分もいつか、先行く仲間として恥ずかしくない背中を、後から来た仲間に見せられたらいいなと思っています。仲間感謝。**DARC**・**NA** に感謝何もかも失ってしまい、すべてをブン投げて栃木にやってきました。「新しい人生に感謝」です。私が回復の道に立てたのは、多くの仲間のおかげです。これからもずっと感謝を続けて回復をしていきたいです。あせらず、ゆっくりと……。最後まで、読んでくださった方にも感謝いたします。ありがとうございました。

今、思う事

依存症のシマ

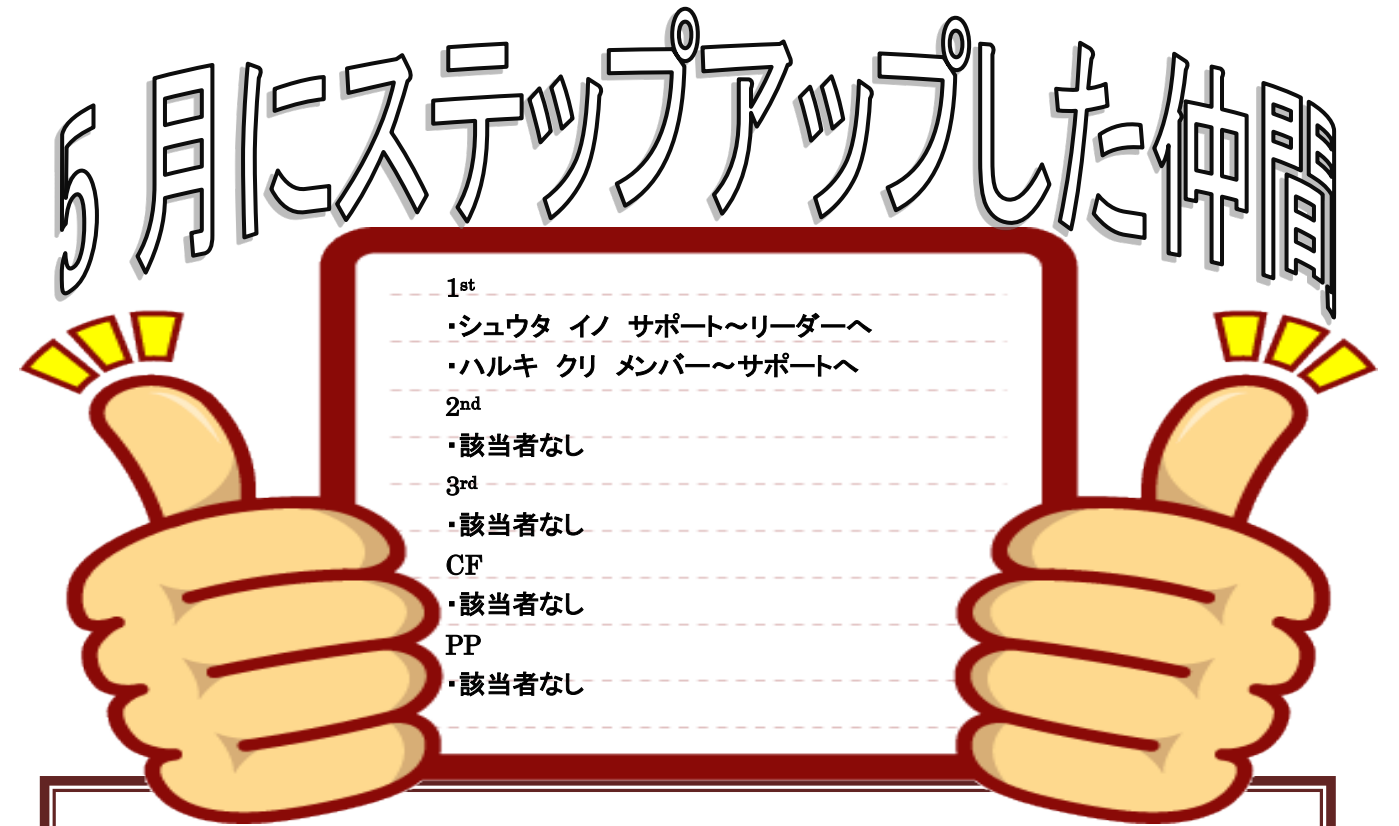
この度 **2SC** で筆を取らせて頂きました依存症のシマです。ニュースレターを書くのも二回目になりました。施設移動により **2SC** で書かせて頂くことになり、過去の自分を振り返る事が出来たと思っています。前回は **CF** へ繋がった頃の振り返りを中心に書かせていただきました。**2SC** に移動してから約二週間が経ちました。**2** 施設で経験した事や双方での生活を通して感じたことを記していこうと思います。まず、**2SC** に移動出来た事は **CF** の施設長と **2SC** の施設長のおかげと感謝しております。処方で縊れていて歩けない。寝てばかりで、プログラムも出来ない。洗濯も出来ない。髭も剃れない。手が震えて御飯もよそれない。座ってられない。そんな状態でした。そんな僕を助けてくれたのは施設長と先行く仲間でした。僕がそれを新しい仲間にしてあげられるのか？と思うと無理だと思います。そんなどう仕様もない僕の面倒を見てくれた施設長と先行く仲間の手助けによってチャンスがやってきました。「茶臼岳の山登り」です。これは僕にとって現在の状態になれた事とこれからの人生の道しるべとなる生活信条の一つです。最初に見た時は絶対に登れないと思いましたが先行く仲間の手助けがあり山小屋まで登ることが出来ました。そこで学んだ事があります。それは、先行く仲間の言葉と行動です。「シマちゃん。いいか？周りのことは気にするな。誰に追い越されようと気にするな。自分の足元だけ、一步一步確実に上がっていく事だけに集中しろ！無理はするな。自分のペースで上がろう。疲れた時は迷わずに休め。米は大切に考えろ。腹が減ったら食え。のどが渴いたら水を飲め。余裕が少しできたら少し先を見ろ。もうすぐ傾斜が緩くなる。つらくなったら花を見ろ。誰にも見られなくても力の限り咲いている。言葉はいらない。態度で示せ」。その当時、僕はほんの少ししか歩くことが出来ず、山小屋にたどりつけるとは夢にも思いませんでした。ただ、転んで怪我だけしない様に足元だけを見て一步一步ゆっくりと確実に上がっていく事だけに集中して行きました。そして後ろを振り返った時に目の前に素晴らしい景色が大きく広がっていました。今でもこの経験は僕にとって大切なことです。どこへ行っても山登り。自分のペースを考えて、仲間と一緒に足元に集中して一步一步上がっていけば、結果（自分で望んだ希望）は後から付いてくる。そう信じています。山登りをした頃から僕の状態が良くなってきました。メンバーからサポートになり、毎日が忙しくなりました。仲間の身の周りに必要な物や食事の心配等考えればきりのない役割で毎日朝早くから夜遅く迄サポート業務をやりました。食事がおいしくても褒められるのはキッチン当番だけ。良いメニューだね、と言ってくれる人は誰もいない。日用品が揃っているのは当たり前。そう思っていた時に救ってくれたのは **OB** の先行く仲間と **2SC** のサポートの仲間でした。無駄な努力はありませんでした。施設長がステージアップの話をしてくれて、リーダーとなり、見守られていたのが見守る立場になりました。施設側に立ち、言いたくないことでも言わなければならなくなり、施設の為の色々な業務を担当しましたが、とても勉強になったと思います。施設長が僕を助けてくれて自己破産の裁判等色々な面倒を見てくれました。そんな時松ヶ峰教会で先行く仲間とフェローシップをとっていた時文献を読んで毎日日記の様に記していく習慣を欠かさず続けていくと不思議な力が働いてくれる事があるとわれ、その頃からキリスト教に興味がわいてきました。毎朝毎晩祈り、文献を勉強していくと不思議な力が働いてきました。その時僕は決心をしました。**2SC** に行ったら勉強しよう。願いは叶いました。今後は **2SC** で教会の礼拝に参加したりやりたかったプログラムをやり、心の平安を感じています。**2SC** の施設長を信じて努力します。

ノンフィクション

マイコ

こんにちは。依存症のマイコです。施設に繋がりが 3 ヶ月経ちました。

私は今回受刑生活中にお父さんを亡くしました。去年の 3 月 1 3 日午前 4 時 5 3 分に息をひきとったそうです。告別式にも 1 周忌にも出る事が出来ずとても情けなくてお父さんに死ぬ間際まで心配かけてしまいました。死ぬ間際にベットで「まいちゃん、まいちゃん」と言葉にしていたそうです。私は本当に薬中でした。シンナーから始まりヘロイン以外の薬物は殆ど使用しましたが、私が 1 番ハマったのは覚醒剤でした。初めは自分で打つ事が出来ず、交際相手の暴力団の人に注射でもらっていましたが、だんだん自分でも打つ事を覚えてくても最初はちゃんと打つ事が出来ず、もらしてしまったり手には注射痕が沢山でき、半袖の服が着れませんでした。だんだん時が過ぎていくと共に自分で打てるようになり、初めはパチンコ屋で働いていたけど、薬が買いたくて給与の高い夜の仕事へ変わりました。キャバクラやクラブ、ラウンジなど、それと知られたくない仕事もいっぱいしてきました。お金と薬に困る事はなかったし夜の仕事はとても楽しかったし、私を指名してくれるお客さんも居て、服もバックもブランド品も沢山持っていました。薬物を使うとモチベーションも上がり、体も軽いしダイエットにもなったので使用は止まらず、毎日がほんと楽しくて、仕事が終わるその足で友達とホストクラブに通い毎日がお祭りみたいでした。私が自分のお客さんの事をお金にしか見えないのと同様、ホストも私の事をお金でしか接客しないって分かっているけど担当のホストが私の隣にいないとすぐキレてグラスや氷を投げたり、しまいには薬のキレ目の時にはボトルごと投げた事もありました。指名してるホストに優しくされたりするとバカな私はシャンパンタワーをしてあげたりシャンパンコールと優越感を味わいたいために毎日薬とホスト、パチンコのために仕事をしていました。パチンコには、昼でも夜でも構わずにキャップ、グラサン、マスクの完全防備で通いました。普通の人から見たらかなり怪しい人だし警察から職質されてもおかしくない格好でした。パチンコが出ないとパチンコやスロットの台にオロナミン C を流したり、社会じゃあり得ない事も薬中なので平気でやってきました。裏カジノでも、1 日で 8 0 万使った事もありました。今考えると本当に私はぶっこわれていました。金銭感覚もおかしくなったし、周りの人間関係もすごくブラックな人しかいませんでした。そんな中に居る私も決して普通ではなかったし、本当に薬中でした。私は派手な生活をずっとしていました。だから刑務所に何度も収容されてもその苦しさを知っていながらも覚醒剤の連続使用がとまりませんでした。ビールも大好きで、朝起きたら寝起きに 1 発とビール 1 杯を体に入れていました。逮捕されるその日も薬を体に入れていました。私が今回この施設に繋がろうと思ったキッカケは、前回の刑務所から措置入院して今の施設長が病院に面接に来てくれて繋がりました。自分の意志で繋がったのではなく、親に一生病院で生活するかダルクで生活するか選べと言われてダルクに決めましたが、たった 3 ヶ月で飛び出してしまいました。けど、今回は本当に覚醒剤をやめたいし本当に施設で回復して普通の生活が出来るよう自立できればと思います。入寮をしたくて施設長に手紙を書きました。今回本当に繋がりたいという気持ちを面接で伝え、柄受けになってもらい本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今は仲間の中で毎日いっぱい生活だけど、自分のスピードでゆっくり焦らずクリーンな日をずっとずっと過ごしていけたらいいと思うし、新しい生き方が出来る様に大切に毎日過ごして、1 日も早くお父さんにお線香つける日がくるといいなと思います。今までできなかった事をこれから挑戦したいです。



5 月の献金・献品

（献金） 匿名者 3 名様

（献品） 星一明様、渡邊淳様、匿名者 5 名様

とても助かっており、 栃木ダルクー同感謝しています。

献品のお願い

- ・修了予定者がこれからも数名いるので、日用品、家電一式、原付バイクその他自立して使用できるものがあればよろしくお願いします。
- ・事務用品(中古パソコン等)、あればよろしくお願いします。
- ・1st StageCenter からソフトボール用のグローブ、用品よろしくお願いします。
- ・CF から農機具関係(草刈機、農作業用品、トラクター)等あれば宜しくお願いします。
- ・PP から 自転車あればお願いします。

お知らせと一言

・6 月でセカンドスージセンターは 2 年を迎え、この度修了生を出すことができました。気がつけば 2 年が経ち利用者も増えて施設らしくなってきたと思います。これからも変わらずに回復支援を続けられるように、あまり焦ることなく着実に進みたいと思います。

編集 秋葉

道に迷うことこそ、道を知ること。

依存症のゴウ

31歳の誕生日にダルクにつながり今年の5月で1年6ヶ月が経ちました。那須と野木に7ヶ月ずつ、そして宇都宮で4ヶ月。今はなんだかんだいい意味で適当に日々を過ごせています。私がこれまで那須1sc 野木2sc 宇都宮3sc と3つの施設で生活して感じたことや経験したこと、取り組んでいることなどを僭越ながら綴らせていただきます。

まずは那須1sc。初期施設ならでわのトラブルが相次いで勃発していました。いま現在は那須の仲間たちをみると雰囲気がとても良さそうなので(それでもいろいろあるでしょうが)私が那須にいた当時はなんだったんだろうって思うくらい毎日のように何かしらありました(笑)そんななか、社会との断絶からの孤独、山奥での越冬、人間関係、早起き、切れ目のだるさ、処方薬の問題、ストレスで過食、してきたことのさまざまな後悔、といったありがちな悩みを考えながら日々もんもんと過ごしていました。仲間と施設の批判を言い合ったり、施設長に早く施設出たいとか言ってみたり。全てに否定的で不満ばかりが口から出ていたと思います。もちろん楽しい思い出もありますが、気持ちが沈みまくりだったこともあり辛い日々を送っていた気がします。役割をもらったあたりで家族のことや将来のことについて考えるタイミングが重なり、なぜかちょっとだけ現状を受け入れようとする気持ちが芽生えました。施設を早く出たいという気持ちは変わりませんでしたがそうなるからは自分のことを考える時間より、いつしか仲間のことを考える時間の方が多くなっていきました。

野木は回復が深まった仲間ばかりなのでトラブルなども少なく雰囲気も良く、施設も清潔感のある綺麗な建物なので山奥の那須で目にしていた様々な昆虫たちも出現せず、個人的にはとても過ごしやすく感じました。避暑地の那須と対照的に野木はとても暑く、移ったのが真夏だったこともあり異動してすぐ体調崩し高熱出して脱水を起こし入院する羽目になりましたが、それ以外は特に問題なく生活できました。海水浴や花火大会、埼玉、群馬、茨城方面に買い物、紅葉狩り、他にもいろいろなトコに出かけてたくさん思い出を作れました。考えの根本にストレスを感じたくないという思いをいつも抱いていたので、そのために毎日出来るだけ笑って過ごせるよう努めていました。みんなはいい迷惑だったかもしれませんが、仲間の部屋に行ってふざけてみたり、仲間のプログラムでの取り組みを後押ししたり、ギターが弾ける仲間に弾き方を教わったり。野木でも仲間のことや仲間との過ごし方をよく考えていた気がします。

施設につながった時は68kgだった体重がピーク時90.6kgにまで増え、服のサイズが2サイズ変わってしまい容姿に自信が全くなりヤバいので今はダイエットしています。80kgまで落ちたのであと-5kg目指し頑張ります。着たい服が着れないのはイヤだし失われた自信も取り戻したいので自分磨きを徐々に行なっています。あと長年かかえていた持病もなおそうと思い、意を決して手術もしました。キツかった…。

宇都宮は社会復帰、自立に向けての施設なので、自分のことは自分でといった具合で身の回りの日用品はきちんと買い揃えて、毎日自炊を行ないます。日常生活で自分自身と向き合う時間が大半を占めるようになりました。受け入れたくないような現実も、考えなくてはならない問題とも向き合わなくてはならない。それでも出来るだけ笑って過ごすことは続けています。あとは小さなことでも悩みは誰かにすぐ相談するようにしています。解決しなくても話をすることで気持ちの面ではとても楽になります。ストレスが薬物使用の引き金になると思うので、日々感じるストレスをなるべく溜め込まない生活を心がけています。もうすぐ就労に出る予定ですが、どんな職種を選ぼうか悩み中です。興味がある仕事はたくさんありますが、状況的に選べるような立場ではないのでまずは自分に合った職が見つかりたいと思います。一番の近道はたいてい悪い道です。早く社会復帰したいので遠回りする気はありませんが、楽をしようとしてショートカットするとロクなことないので、はやる気持ちを抑えて焦らずマイペースで物事に取り組んで人生を歩んでいこうと思います。

**5月に栃木 DARC を修了し職員になった大吉です。
今後ともよろしくお願いします**



施設報告

1sc（導入）14名 2sc（回復）13名 3sc（後期・社会復帰）10名 CF（農業）12名 pp ピースフルプレイス（女性）13名計 62名で活動しております。各々の施設でステージ事のプログラムを実施しております。